

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0393000013		
法人名	株式会社 メイト		
事業所名	ホーム とよまね		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町豊間根2-64-11 (電話) 0193-86-3610		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 岩手県福祉総合センター3F		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	3月11日

【情報提供票より】(20年 1月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (21,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		(行事費積立 50円)

(4)利用者の概要(1月 20日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	5名	要介護2	4名
要介護3	-名	要介護4	-名
要介護5	-名	要支援2	-名
年齢	平均 82.3歳	最低 74歳	最高 92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立山田病院、近藤医院、浦部内科クリニック、石川歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国道45号線山田町～宮古の中間地点で、JR豊間根駅より徒歩5分、周囲は田畑や川があり自然に恵まれ、ホーム内から四季折々の風情を楽しむことができる。地元企業の経営者が、たつての願いを実現し、スタッフもほとんど、地元に住んでおり地域との密着度が高く、開設一年足らずだが穏やかな雰囲気が高い、今後の運営向上が更に期待される。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>平成19年4月開設の為、今回が初めての外部評価になる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全てが初めてのことなのだが、管理者が柱になり、昨年11月頃から職員全員で分担して評価し、それを職員会議で全体的に検討し取り組んだ。方向性を見定め、確実に進むように期待したい。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回の頻度で開催されているが、毎回活動状況の報告と今後の予定を報告し、更に研修の報告も行い、それについての意見・評価・アドバイス等がある。特に、地元消防団の方もメンバーに入っているので災害対策についてのアドバイスが大変参考になった。今後は外部評価のことも話題にし、さらに前進的な運営推進会議になることを望みたい。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>開所して一年未満なのだが、家族からの意見、苦情などは現在のところ殆どない状態である。利用者も、比較的介護度の軽い方々なので、毎日の生活を楽しんでいる様に見えた。家族の声を聞き、理念に添ってさらに前進されることを期待したい。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>経営者や、職員は殆ど地元であるので、地域とのかかわりが円滑に取られている状況である。開設してから一年未満だが、地元の小学生、高齢者、保育園などとの交流が活発になり、将来的には、地域の福祉にも一翼を担えるような目標をもっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として複数の候補を上げたが、皆で検討してホームにふさわしい理念を選んだ。事務所、食堂、ホールに見やすい大きさに掲示してあった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	特にスタッフ全員で唱和することはないが、職員会議の際に読み上げて互いに意識づけを行っている。常に理念を思い起こし、初心を忘れずにケアにあたることに期待したい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方々から地元農産物の差し入れが多く、経営者、職員とも地元の人であるので、地域との密着性が高く、交流も深まってきている。今後は、ホーム職員が出向いての地域での研修会や、ホーム主催のイベント開催など、より地域への奉仕も含めた活動に期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常勤の職員が10項目ずつ手分けして評価を行い、そのあと職員会議で総合的に検討した。	○	現在パート職員が2人勤務されているが、今後は、この2人のパート職員にも職員の検討会議にぜひ出席してもらい、全職員での総合的、評価検討会議となるように望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に活動内容や今後のスケジュール等を報告し、それに対する意見交換を行い、利用者の生活状況や防災などについても話し合い、広く意見やアドバイスを頂いている。次回は、外部評価についての状況報告等をして、更に有意義な運営推進会議となることを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて連絡を取っている。特に事務手続き上のことで市町村との様々な関わり持たれている。成年後見人の利用者も2人いらっしゃるの連絡は密にしている。	○	町へは事務手続きなどで足を運ぶ機会が多く、関わりが保たれているが、事業所運営等における積極的な連携が出来ているかという部分では課題が残されているように感じられる。運営推進会議などを活用して、(担当)町からも活発な意見を求めていく取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近距離の方は月1度程度訪問があり、遠距離でなかなか訪問できないご家族に対しては、郵便又は電話で連絡を取っている。(くらしぶり、金銭管理、健康状態、職員の異動等)	○	金銭管理台帳は用意されており、定期的に家族に報告はしているが、家族の確認印がついていなかったの、これからのトラブル防止の為に、確認印等での確認の証を貰うことが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回行い要望、意見にはできる限り対応している。又、毎月の家庭訪問においてもその通り反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から何人かの職員が退職されたが、離職された職員が、各々気配りをされた様子で、特に利用者の動揺は見当たらなかった。	○	今後、運営者と職員の意見交換会や懇談会などの場を設け、職員の定職率の維持を図っていきたい。やむを得ず新しい職員に替わる際には、引継ぎの期間を十分に取、馴染みの関係を早期に築けるような配慮を続けていく欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が交替で研修に参加し、そのあとホーム内で全員で勉強会を実施する。2級ヘルパーの資格のない職員もあり、この方々に特に力を入れて指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域の「グループホームまぶる」と運営推進会議で互いに出席し情報交換し、サービスの向上を図っている。運営推進会議に同業者が互いに出席することは学ぶ点や情報交換もでき良い事と思われるので、是非今後も継続して行って欲しい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	急な生活の変化で混乱がおこるのを避け、利用前に見学をしてもらったり、本人や、家族からどんな生活をしてきたかをよく聞き、利用者の状況を見て、たまには家族へ電話するなど、家族の協力を得ながらケアにあたっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おばあちゃんの知恵袋と言って、かなりくらしの知恵を教わっている。調査時のおやつでもずんだ餅の作り方を教わり、大変おいしいずんだ餅が出来あがった。介護度が比較的軽度であるので、意思疎通が図れることが多いが今後も利用者の思いを大切にケアして欲しい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	回転寿司や、近くの食堂などで外食をしたり、買い物や美容院への外出をしたり、職員はかなり意向をくんで対応している。美容院から帰ってきた利用者の生き生きした顔が印象的であった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活の様子をみたり、職員会議で職員の意見を聞いたりして介護計画を作成している。介護計画を作成した度に、家庭を訪問し、内容を説明している。	○	作成された介護計画の説明は丁寧に行なわれているので、今後は介護計画の作成に、本人や家族の意見などが更に反映されるようになることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に一度見直しをするが、必要に応じて、臨機応変に対応している。利用者一人ずつに(職員)担当者がおり、よく利用者の状況を観察し、必要に応じて緊急に職員会議を開き見直しを行なう。	○	介護計画見直しの効果を高める為に、取り組み内容の評価を適切に行い、その内容に基づいた検討を行うようにすることが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者全員が通院介助を必要としており、最近は無料で送迎をしている。また、地域の方々に車イス使用の方々を、介護者が一時不在の際にはホームでお預かりしたり、必要に応じて地域への介護学習も行い期待に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員がかかりつけ医があり、御家族と協力し通院介助を行っている。主としてケアマネジャーが同行し、状況を把握し計画にも活かすように努力している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を整えた際に重度化、終末期のあり方に対する指針を定めてあるが、これまで入居者の重度化が無く、対応はしてない。	○	終末期に限らず、重度化が急激に進行した場合に、どのように対応するかなど、関係者との話し合いを行なっておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルを用意し、ミーティング、職員会議等でも意識の向上を図っている。情報を伝える場合も、他の利用者にはわからないような方法をとって注意し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも職員の都合を優先させない様にその人のペースに合わせ、本人本位での対応に心がけている。高齢な方々なので無理のないように継続されることが第一である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物準備、調理など、常に手伝って頂き、ただ食べるだけでなく産地なども説明したり、食器も自分の好みのものを使ったり、座る場所も決めたり、細心の気配りで努力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェックは毎日行い、その人のペースを把握し、入る日の曜日を定め、声がけをしている。希望があればその都度対応、就寝まえに毎日入浴する人もあり、時々仲の良い人が2人で入ることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者基本情報シートに記入して、それに沿ったあらゆる支援を行なっている。(塗り絵、貼り絵、裁縫、お手玉づくり、洗濯物かたづけ、モップがけなど)また、職員から提案してできそうなことをやってもらったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があればその都度対応し、晴れている日は声がけをして外出を促している。時々、外食(回転ずし)などにも行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方6時から朝6時10分までは施錠、それ以外鍵はかけていない。帰宅願望や徘徊などのある方に対しては、見守りなどの担当職員を決めておく。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議に地域の消防団の人がおり、大変便宜を図ってもらっている。これまで火災訓練を2回、震災訓練は1回実施。訓練時に火災通報装置を利用者に押させたこともある。	○	災害はホームだけでなく、地域でも注意せねばならない。従って推進会議で呼びかけ、地域ぐるみで訓練に参加することが望ましい。また、夜間訓練も機会をみて行なうよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量チェック表があり、個人の摂取状況や量を把握し、栄養バランスを考え料理している。管理栄養士に献立をチェックしてもらい参考にしている。メニューは殆ど職員と利用者で話し合っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室のドアには、自分の好みの絵と名前を大きく書いたユニークな表札がある。全体が床暖房となっており、冬季は暖かい。天井が高く、居間の窓から田、畑などが一面に見え、季節感を十二分に味わえる様に工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや家族の写真、位牌を持ってこられたり、床には好みのカーペットを敷くなど、各々安心して過ごせる様に気配りがしてある。		